

【情報公開文書】

2021 年 4 月 19 日作成

Ver.1.1

研究課題名	幽門側胃切除後の尾側脾切除の安全性に関する検討 -国内多施設共同研究-
所属（診療科等）	長崎大学病院 移植・消化器外科
研究責任者	今村一歩（助教）
研究機関	《研究代表機関》 島根大学医学部 消化器・総合外科学講座 田島義証 《共同研究機関》 長崎大学病院 移植・消化器外科：今村一歩 その他、全国の約 175 施設で実施しています。 詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。
研究期間	長崎大学病院長許可日～2025 年 12 月 31 日
研究目的と意義	脾臓の体尾部に腫瘍などができた場合に、脾体尾部切除術という脾切除手術が必要になる場合があります。胃の病気(胃癌・)のため幽門側胃切除という手術を受けられたことのある方で脾体尾部切除を行う場合、脾切除に伴って残った胃の血流が低下するため、残胃炎や残胃潰瘍、胃内容停滞、胃穿孔などの術後合併症を生じることが知られています。このような術後合併症の発症に影響を及ぼす原因を明らかにすることができれば、より質の高い安全な脾切除、ならびに術前・術後の対応策を講じることができます。本研究では、脾体尾部切除術が残胃へ及ぼす影響・要因を明らかにし、今後のより安全な周術期管理および外科療法の改善に役立てたいと考えています。
研究内容	●対象となる患者さん 2009 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日の間に長崎大学 移植・消化器外科で、幽門側胃切除後に脾体尾部切除術を受けられた方 ●利用する情報 電子カルテおよび病院保管資料から血液生化学検査（血算、栄養状態、肝機能、脾機能、腎機能、腫瘍マーカー）や画像所見（超音波、CT、MRI、内視鏡検査）、臨床経過（症状、現病歴、既往歴、手術術式、合併症の種類、胃虚血の有無、手術後の経過、退院後の経過についてのデータを抽出します。 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。 ●研究の概要・方法

	上記データを用いて、幽門側胃切除後の脾体尾部切除術の安全性、特に残胃虚血に影響を与える因子について、統計学的に解析します。 参加施設からのデータは島根大学医学部消化器・総合外科学講座へ郵送されます。収集したデータは、島根大学医学部消化器・総合外科学講座の外部から容易にアクセスできないパソコンで厳重に管理します。 研究対象者（患者さん）の識別は研究用の識別番号により行います。個人情報識別できないようにその対応表は収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。研究に関するデータ及び関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも5年間保管し、その後匿名化した状態で廃棄（消去）します。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：今村 一步（助教） 長崎大学病院 移植・消化器外科 住所：長崎市坂本1丁目7番1号 電話：095（819）7316 FAX 095（819）7319 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）